

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 機械受注統計調査(2012年6月)

発表日 2012年8月9日(木)

～事前予想を下振れ。先行きへの懸念強まる～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		民需			代理店	官公需	外需
		船舶・電力除く	製造業	非製造業			
			船舶・電力除く	船舶・電力除く			
前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比		
12	1-3月	0.9	0.1	0.5	10.2	10.9	6.6
	4-6月	▲ 4.1	▲ 5.8	0.0	▲ 6.1	4.2	▲ 17.1
	7-9月(見)	(▲ 1.2)	(1.0)	(▲ 3.5)	(3.7)	(▲ 14.6)	(▲ 5.6)
11	1月	2.0	4.3	4.0	8.2	▲ 3.4	8.7
	2月	2.7	▲ 0.7	1.5	▲ 3.0	10.6	13.2
	3月	▲ 0.7	1.1	0.6	2.3	▲ 9.3	▲ 13.4
	4月	▲ 0.2	▲ 1.2	1.7	16.2	1.0	▲ 0.6
	5月	0.1	0.2	▲ 2.6	▲ 14.5	5.8	▲ 3.7
	6月	7.7	4.1	10.2	▲ 6.4	▲ 0.5	▲ 4.6
	7月	▲ 2.8	▲ 3.0	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 1.2	▲ 6.8
	8月	0.5	4.6	▲ 4.1	▲ 0.8	▲ 4.2	22.2
	9月	▲ 2.3	▲ 7.8	5.6	12.7	0.3	▲ 16.0
	10月	▲ 0.6	2.8	▲ 4.8	1.2	1.8	1.6
	11月	3.1	2.9	5.4	2.1	▲ 5.9	14.1
	12月	▲ 2.5	▲ 4.0	▲ 4.0	2.5	41.3	4.1
12	1月	0.7	▲ 1.3	1.4	▲ 2.1	▲ 16.1	14.6
	2月	2.8	9.5	2.1	3.8	▲ 6.1	▲ 13.4
	3月	▲ 2.8	▲ 8.4	▲ 3.9	21.5	40.0	▲ 14.4
	4月	5.7	3.4	5.7	▲ 21.1	▲ 5.0	0.3
	5月	▲ 14.8	▲ 8.0	▲ 6.4	8.7	▲ 21.8	0.3
	6月	5.6	▲ 2.9	2.6	▲ 5.3	19.2	▲ 9.8

(出所) 内閣府「機械受注統計」

○ 事前予想を大幅下振れ

内閣府から発表された2012年6月の機械受注(船舶電力除く民需)は前月比+5.6%となった。5月に前月比▲14.8%と急減していたため、6月には反動から二桁の伸びになるとの見方が多かったが(コンセンサスは前月比+11.0%、筆者予想は+12.5%)、増加幅は物足りないものだった。事前予想を大幅に下回る弱い結果である。ヘッドラインの数字以外にも、外需の減少や7-9月期見通しがマイナスになるなど悪材料が多く、内容も悪い。海外経済の減速に伴う輸出の伸び悩みや円高などが、企業の投資意欲を抑制している可能性がある。

復旧・復興需要による押し上げや、震災後に先送りされてきた投資の顕在化などを背景として、日銀短観や法人企業景気予測調査、日本経済新聞社調査などの設備投資計画は軒並み強めの結果になっているのだが、現時点ではそれが実際の投資に繋がっている様子は窺えない。今後も外需の下振れや円高等が続くようであれば、企業の投資先送りの動きが広がり、設備投資が下振れる可能性があるだろう。弊社では、①設備投資計画が強いこと、②先行きは中国経済の持ち直しに伴い輸出が増加することで、企業マインドの改善が期待できること、③機械受注は単月の振れが大きく、足元の悪化は一時的なものである可能性があること、などを理由として、設備投資は先行き緩やかに増加するとのメインシナリオを維持するが、リスクは下振れだろう。

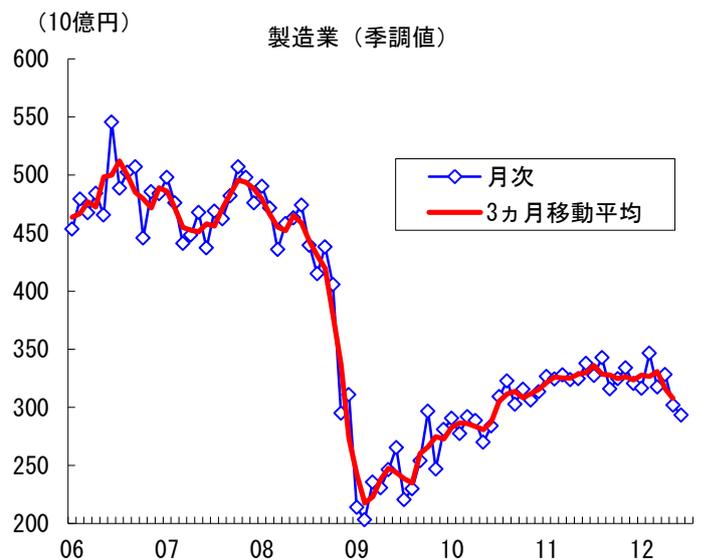
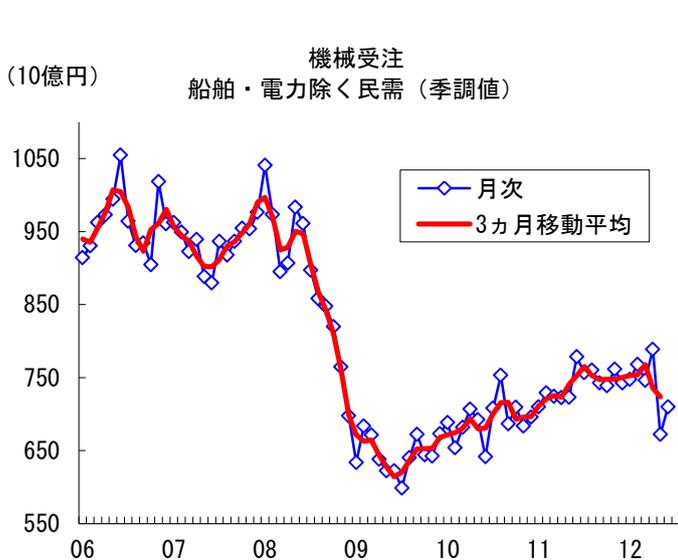
○ 製造業が悪化

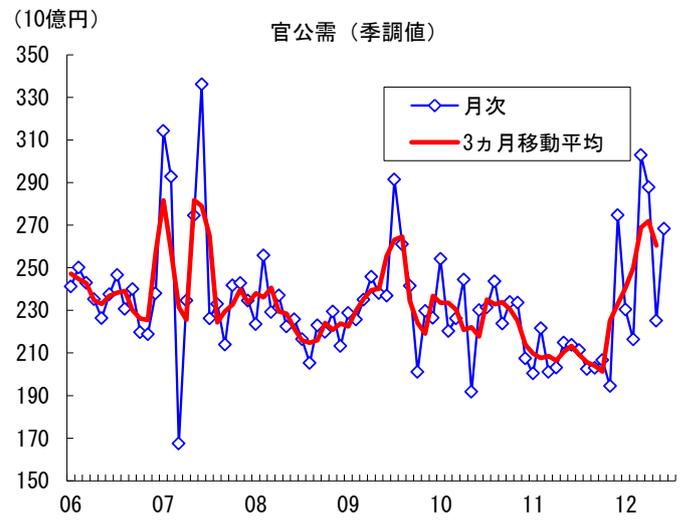
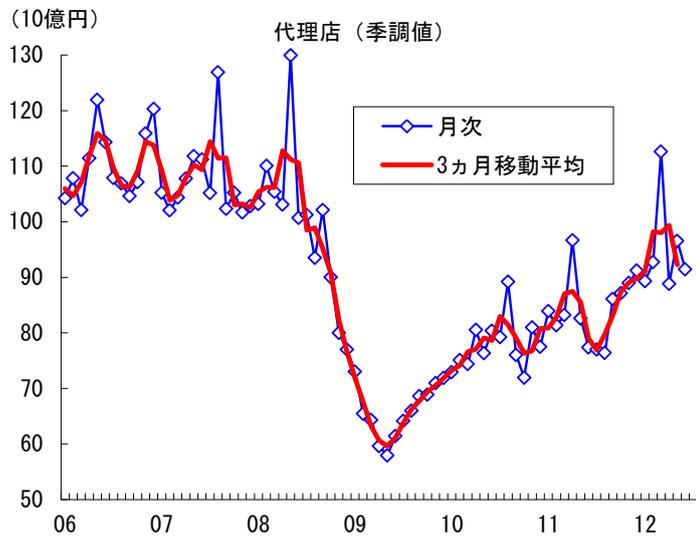
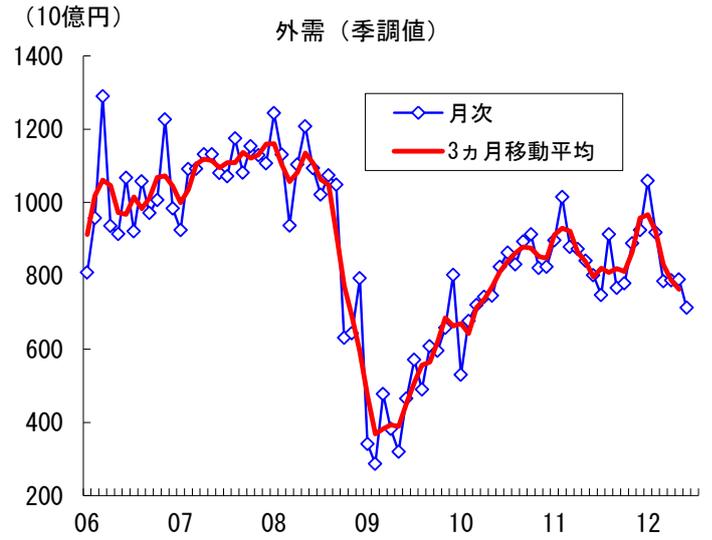
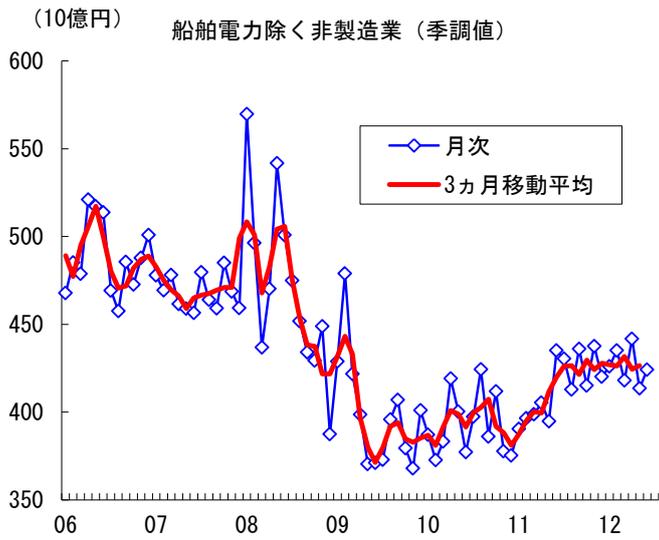
4-6月期の機械受注（船舶電力除く民需）は前期比▲4.1%となった。内閣府見通しである+2.5%を大きく下回り、2四半期ぶりの減少に転じている。内訳では、製造業が前期比▲5.8%、非製造業（船舶・電力除く）が同横ばいであり、特に製造業の落ち込みが大きい。電気機械（同▲15.7%）、自動車・同付属品（同▲12.5%）などが押し下げたほか、鉄鋼（同▲16.0%）、化学（同▲12.3%）等の素材業種の落ち込みも大きく、幅広い業種で減少している。月次で見ても製造業は5月（前月比▲8.0%）、6月（同▲2.9%）と2ヶ月連続の減少であり、足元で弱含んでいるように見える。今後、輸出が期待通りに回復できるかどうかは製造業の設備投資の鍵を握るだろう。なお、非製造業については昨年後半以降横ばい圏内の動きが続いている。

同時に公表された7-9月期の見通しは前期比▲1.2%となった。4-6月期の減少の後にもかかわらずマイナスとなっており、ネガティブな結果である（製造業：+1.0%、非製造業：▲3.5%）。企業の設備投資に対する慎重姿勢が窺える。ただし、7-9月期の見通しは過去の達成率が低いことにより計算上低めに出ている面がある（単純集計値では前期比+7.3%）。7-9月期が前期比プラスになるためには7月以降前月比+1%以上あれば良く、ハードルがそれほど高いわけではない。7-9月期の機械受注は小幅増加に転じると予想する。

○ 懸念される外需の動向

6月の外需は前月比▲9.8%と減少し、4-6月期で見ても前期比▲17.1%と大幅な減少となった。タイの洪水からの復興需要により1-3月期に増加（前期比+6.6%）していた反動の面もあるとみられるが、それだけでは説明しきれない。世界的に景気の先行き不透明感が強まっていることで、海外でも設備投資の抑制が進んでいる可能性が示唆される。また、7-9月期の見通しも前期比▲5.6%と弱い（単純集計値では+7.6%）。個人消費を中心とした内需にこれまでのような牽引力を期待できないなか、輸出の回復は今後の日本経済の鍵を握るだけに、懸念される動きである。





(出所) 内閣府「機械受注統計」